

研究テーマ	[V 造形教育の広がりを考える] 暮らしの中の作品に関心をもち、よさや美しさを感じ取るための鑑賞活動の工夫 ～小学校第6学年「お祭り美術館」の学習を通して～
-------	--

石岡市立東小学校 教諭 中島 淳

1 研究テーマについて

本研究のテーマとなる「造形教育の広がり」は、大きく2つの柱で構成されるものとする。一つは「児童が図画工作科で培った資質や能力が生活の中で生きて働くこと」、もう一つは「学校、家庭、地域社会が連携・協力して教育活動を推進すること」である。そして、それぞれの柱を安定させるための授業の工夫改善に努める必要がある。

中央教育審議会答申（平成20年3月）（以下「答申」という。）における図画工作科の改善の基本方針に、「生活の中での造形や美術の働き、美術文化に関心をもち、生涯にわたり主体的に関わっていく態度をはぐくむことなどを重視する」、「美術文化の継承と創造への関心を高めるために、作品などのよさや美しさを主体的に味わう活動を一層重視する」といった内容が示されている。また、小学校学習指導要領図画工作編（平成20年8月 文部科学省）（以下、「小学校解説」という。）の高学年の内容B鑑賞（1）のAに、「親しみやすい美術、暮らしの中の作品のよさや美しさなどに関心をもち鑑賞する。」とある。これらの答申や小学校解説の内容等を踏まえると、児童の生活と関わりが深く、児童の興味や関心が高い身近な造形品の鑑賞活動こそが、本研究のテーマの実践としてふさわしいものと考えた。しかし、重要な課題が生じる。それは、鑑賞の対象となる造形品を何にするかである。そこで、研究テーマのもう一方の柱となる「学校、家庭、地域とが連携・協力した教育活動の推進」に着目し、児童が進んで参加する伝統的、文化的な地域の行事と鑑賞活動を結びつけることとした。そして、鑑賞の対象として扱うことにしたのが、地域の祭礼で使用される、様々な表情をした面である。種類が豊富で、色や形の特徴を捉えたり、イメージを膨らませるのには適した造形品といえる。作品への興味・関心や、作品から感じ取ったよさや美しさをこれからの地域での活動（祭礼への参加や見学）に生かすことができるものでもある。作品への思いは祭礼への興味・関心へとつながり、郷土を愛する心の育成にも大きな役割を果たすものとする。このことは、造形教育の広がりを見出すものでもある。

以上の研究テーマに対する考えを基に、以下に授業の実践を示すものとする。

2 実践例

(1) 題材名 お祭り美術館

(2) 題材の目標

- 暮らしの中の作品について関心をもち、よさや美しさを感じ取ることができる。

(3) 題材について

本題材は、地域の祭礼で使われる美術作品を鑑賞し、よさや美しさを感じることをねらいとしている。本校の属する地域は、毎年9月の3日間、祭礼が盛大に行われ、その中で、御輿や山車、獅子や面など、美術品、工芸品といえるものをたくさん目にすることができる。これらの作品を扱うことが小学校解説の内容にふさわしいものであることは先に述べた通りである。作品を見たり、手にしたり、意見交換をしたりするなど、鑑賞活動の内容を工夫、充実させることで、より深く作品のよさや美しさを感じ取らせることができると考える。また、地域の行事や文化に広がりをもたせ、郷土を愛する心の育成につなげていくことができると考える。本題材で扱う作品の借用にあたっては、作品を所有する地域住民の理解と協力が必要となる。地域の特性を生かした教育活動の積極的な情報発信と協力依頼は、「開かれた学校づくり」に基づく取組であり、地域住民の学校教育活動への一層の信頼を得ることができる。と考える。

本学級（37名）は明るく元気な児童が多く、学校行事に積極的に参加することができる。地区の行事に関しても同様で、祭礼にも多数の児童が参加や見物をする。したがって、祭礼に使用する数々の作品をこれまでも多く目にしていることになる。しかし、間近で作品の細部まで鑑賞し、形や色を感じたり、材料について知ったりする機会や経験はほとんどなく、祭礼が楽しみであっても、作品自体に関心をもち児童は少ない。実態調査において、実際に獅子や面などに触れたことのある児童や、祭礼の道具や出し物に対して「美術作品」であるという意識をもったことのある児童は全体の半数にも満たなかった。一方で、「お祭りに使うものを近くで見たいですか」という問いに対し、30名

以上の児童が「はい」と回答し、鑑賞への関心が高いことが明らかとなった。

本題材は、鑑賞作品と鑑賞方法が重要な指導のポイントとなる。作品においては、児童が鑑賞の能力を十分に働かせることができるよう、関心をもちやすいもの、色や形のよさや美しさを感じやすいもの、製作方法を理解しやすいものを対象とする必要がある。そこで、おかめやひょっこなど、山車の上での踊りに使われる様々な色や形の面を扱うことにする。鑑賞方法においては小学校解説で重視されている〔言語活動〕と〔共通事項〕の内容を効果的に取り入れるようにする。鑑賞カードは「分析型」とし、色や形、受けるイメージなど様々な視点から作品を鑑賞させることで、関心を高め、思考力、判断力の育成に努めたい。また、友人に自分の意見を伝えたり、友人の意見を聞いたりする活動を取り入れることで作品への見方や感じ方を深めたい。使用する材料や用具及び製作過程については、教師と対話型の鑑賞活動をすることで、技術面への関心や知識の広がりを図りたい。更には、伝統の大切さや地域のよさにも気付かせることで、培った資質や能力を日常の生活に生かせるよう、働きかけていく必要があると考える。

(4) 評価規準

関心・意欲・態度	鑑賞の能力
・作品に進んでかかわり合い、よさや美しさを進んで味わおうとしている。	・作品を見たり、作品について友人と話し合ったりしながら、よさや美しさを感じ取っている。

(5) 指導と評価の計画（1時間扱い）

次	時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
1	1	作品を鑑賞し、受けるイメージや表現方法など、多視点からの分析を行い、友人と意見を交換し合う。	・作品に進んでかかわり合い、よさや美しさを進んで味わおうとしている。【関】【観察】 ・作品を見たり、作品について友人と話し合ったりしながら、よさや美しさを感じ取っている。【鑑】【観察・学習カード】

(6) 本時の展開

①目標

- 身近な美術作品への見方や感じ方を深め、よさや美しさを味わうことができる。

②準備・資料

教師…祭面（ひょっこ面12種、おかめ面3種、きつね面3種）、
製作用材料・用具（桐の木、のみ、日本画の材料等）、掲示用資料、学習カード
児童…筆記用具

③展 開

学習内容および児童の活動・反応	教師の支援・配慮事項および評価
1 本時の学習課題を知る。	・地区の祭りには多くの美術作品が存在していたことを、前時の学習から想起させる。
お祭りに使われる美術作品に親しみ、よさや美しさを味わおう。	
2 作品を鑑賞する。 (1) 作品の使い方や種類について、全体で話し合う。 (2) 作品鑑賞の注意点を確認する。 (3) 作品を鑑賞する。	・ひょっこ面を例に取り、希望する児童に付けてもらうことで実際の使い方を確認する。また、印象を話し合うなどして、面への関心を高めた上で、他の作品を展示していくようにする。 ・面の破損や汚れを防ぐための基本的な扱い方を伝え、作品を丁寧に扱う態度を養う。 ・作品を引き立たせるため、面を展示する際には背面に黒画用紙を貼る。展示の角度にも注意する。 ・作品に触れたり、顔に付けたりすることのできるコーナーを設け、より作品に親しみやすくする。

関 作品に進んでかかわり合い、よさや美しさを進んで味わおうとしている。
(観察から)

3 作品を分析する。

(1) 鑑賞カードを用いて作品を分析する。

【分析項目】

- ①作品の名前
- ②作品から受けるイメージ
- ③作品の形や色で気付いたこと
- ④作品に使われている材料や用具
- ⑤作品ができるまでの手順や時間
- ⑥作品に対する疑問点

(2) 分析した結果について、友だちと意見交換をする。

- ・児童が自分で気に入った作品を1つ選択し分析できるようにすることで、関心をもって学習に取り組めるようにする。
- ・分析する作品は、この時間も自由に見てよいことを知らせるとともに、鑑賞カードに写真を貼らせることで、細部まで目が行き届くようにする。
- ・思考力に乏しい児童には、状況に応じて、感性に重点をおいた左記の分析項目の②と③を優先して行わせるようにする。

- ・小グループに分かれ、個々が選んだ作品の分析結果を友人に説明したり、友人の説明を聞いたりする場【言語活動】を取り入れることで作品の見方や感じ方を深めたい。

鑑 作品を見たり、作品について友人と話し合ったりしながら、よさや美しさを感じ取っている。
(観察・学習カード)

4 教師の話を聞き、本時のまとめをする。

- ・児童のカードや意見交換の紹介
- ・材料や用具、製作手順の紹介
- ・分析項目⑥に関わる質疑応答

- ・児童のカードや話し合いの内容でよかった点を紹介するとともに、材料や用具、製作方法等の知識を加え、本時のまとめとする。
- ・〔共通事項〕の視点として、形や色への気付きに関する児童の記述内容は、特に多く取り上げたい。
- ・実際の作品製作に使用される材料や用具を見せ、教師との対話型の鑑賞活動をすることで、製作過程への興味や知識、並びに「つくる」ことへの関心を高められるようにしたい。
- ・お祭りの中には他にもたくさんの美術作品があることに触れ、地域の行事やよさについて考えさせ今後の生活に生かせるようにしたい。

3 成果と課題

様々な表情の面を鑑賞の対象にしたことは、子ども達の造形への興味や関心を高めることに繋がった。また、作品の背面色を黒で統一することで作品を引き立たせたり、作品に自由に触れることのできる機会を設けたことで、鑑賞の場が充実し、更に高い効果を得ることができた。「歯の一本一本まで細かくつくっあってすごい。」「触るとつるつるだ。」「お面の種類によって外の景色の見え方が違うんだね。」など、子どもたちからたくさんの驚きや喜びの声があがった。作品に深く関わられた証拠である。

【資料1 作品鑑賞の様子】



更に深く作品のよさや美しさを感じ取らせる手段として用いた学習カードには、児童の様々な思いが書かれていた。

学習カードは、小学校解説における〔共通事項〕に基づくものである。〔共通事項〕の高学年の内容では、「形、色、動きや奥行きの特徴をとらえること。」「自分のイメージをもつこと。」が重要なポイントとして挙げられているため、これらのポイントに目を向けて鑑賞することができるよう、学習カードに意図的に質問項目を設定した。

資料2は児童の記述の例であるが、資料に示す①には「形」、②には「色」、③には「動き」④には「奥行き」、⑤には「イメージ」に関する内容がしっかりと書かれている。このことは、「見る」「感じる」「想像する」の活動が充実し、作品のよさや美しさを十分に味わうことができたものと判断することができる。また、材料や用具に関しても様々な種類のもので書かれており、製作過程にも興味をもって鑑賞することができたものとする。

資料3は、各自の学習カードを基にしたグループでの意見交換の様子である。各自が選んだ面について、カードに書いた内容を一生懸命説明する様子が見られた。友人の説明や意見から新たな発見をする児童もいた。個々の鑑賞活動に加え、作品よさや美しさを広く感じ取ることができた。よって、言語活動の導入も有効な手段であったと判断できる。

【資料3 話し合い活動の様子】



使用する材料や用具及び製作過程については、教師と対話型の鑑賞活動をしたが、教師の問いに関心をもち、積極的に意見を述べる児童が多く見られた。初めて知ることに対し驚きの声もあがり、技術面に関しても児童関心の高さを感じた。

授業終了後の感想には、「もっといろいろな種類の面を見ていたい。」「お祭りの時にも面をよく見てみたい。」といった内容が多く、今後の地区の祭礼への参加や見学への関心に繋げることができた。また、授業を実施するにあたり、地元の祭礼関係者より多大なる理解と協力を得ることもできた。これらのことは、「図画工作科で培った資質や能力が生活に生きて働く」、「地域社会との連携」に結びつくものであり、本研究のテーマとなる「造形教育の広がり」に繋げることができたものと判断する。

今後の課題は、鑑賞活動で得たものを表現活動に結びつけられるような（例えば祭面の製作の追体験）系統的な学習活動の充実を図り、段階的に児童の資質や能力を高めていくことにあると考える。

【資料2 学習カード】

お祭り美術館

お祭りに使われる美術作品に親しみ、よさや美しさを味わおう。

このお面の名前は
きつね(もぎらね)

特に気に入ったところやすごいなと感じた部分は
目のぬりかた
口がうごこと
③

お面の色や、ぬり方から、感じたことや思ったことは
④ 口の中から目の中
とてきれいになりぬらされて
② 赤と黒と白
でいねりにぬらされて
いる

名前

[Redacted Name]

どんな材料が使われているかな
木うろし
+ふにがの毛
かんげふ.
ゴム
ワイヤー

どんな道具を使ってつくるのかな
ちゅうくどう
やすり
のみ

お面の形(表情)から受けるイメージは
① 目がうつらしているの
少しこわい感じ
⑤ かする
口はうつらしているかん
じもするから
やさしいかしもす
おまかみのよう